

第3章 医師・歯科医師・薬剤師調査

1 医師

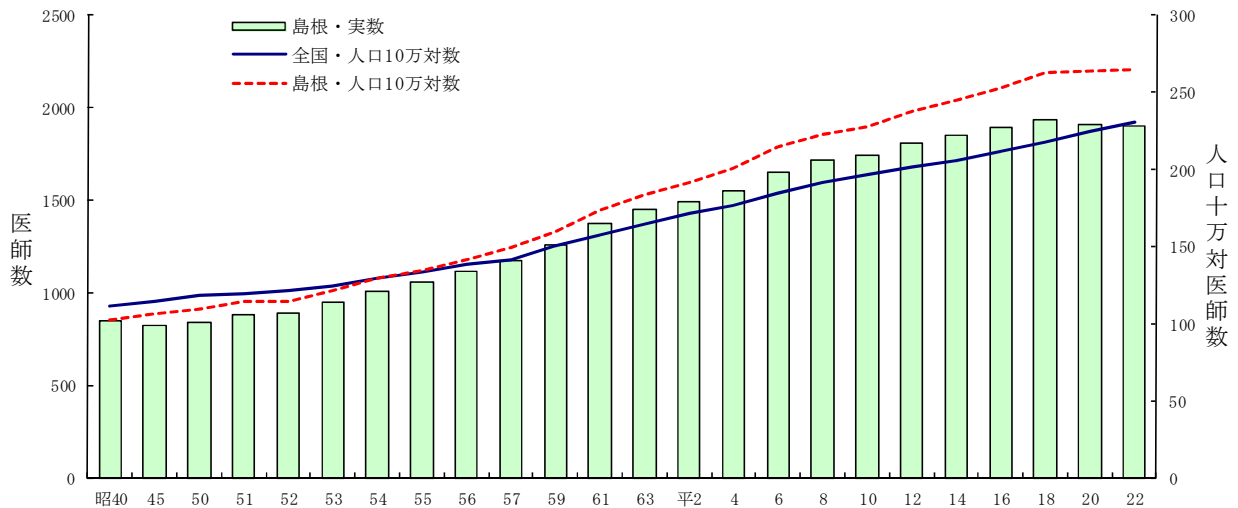
平成22年末現在の医師の届出数は1,900人で、前回調査時の平成20年から11人減少した。業務の種類別にみると、医療施設の従事者は1,799人で総数の94.7%を占め、前回に比べ2人減少したが、構成割合は0.5%上昇した。介護老人保健施設の従事者は21人で前回に比べ1人減、医療施設・介護老人保健施設以外の従事者は66人で前回に比べ7人減、その他の者は14人で1人減であった（表3-1）。

表3-1 業務の種類にみた医師数及び構成割合

	医 師 数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成22年	平成20年		平成22年	平成20年
総 数	1,900	1,911	△ 11	100.0	100.0
医療施設の従事者	1,799	1,801	△ 2	94.7	94.2
病院の従事者	1,163	1,162	1	61.2	60.8
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	25	22	3	1.3	1.2
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	825	841	△ 16	43.4	44.0
医育機関附属の病院の勤務者	313	299	14	16.5	15.6
臨床系の教官又は教員	167	163	4	8.8	8.5
臨床系の教官又は教員以外の従事者	146	136	10	7.7	7.1
診療所の従事者	636	639	△ 3	33.5	33.4
診療所の開設者又は法人の代表者	467	488	△ 21	24.6	25.5
診療所の勤務者	169	151	18	8.9	7.9
介護老人保健施設の従事者	21	22	△ 1	1.1	1.2
介護老人保健施設の開設者又は法人の代表者	3	4	△ 1	0.2	0.2
介護老人保健施設の勤務者	18	18	-	0.9	0.9
医療施設・老人保健施設以外の従事者	66	73	△ 7	3.5	3.8
医育機関の臨床系以外の勤務者又は大学院生	38	36	2	2.0	1.9
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	6	6	-	0.3	0.3
行政機関又は保健衛生施設の従事者	22	31	△ 9	1.2	1.6
行政機関の従事者	14	16	△ 2	0.7	0.8
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	3	12	△ 9	0.2	0.6
産業医	5	3	2	0.3	0.2
その他の者	14	15	△ 1	0.7	0.8
その他の業務の従事者	-	2	△ 2	-	0.1
無職の者	14	13	1	0.7	0.7
不 詳	-	-	-	-	-

平成22年の人口10万対医師数は264.8人で、前回の263.6人に比べて1.2人上昇した。人口10万対医師数は年々上昇傾向にあり、昭和54年までは全国を下回っていたが、その後は上回って推移しており、その開きは年々大きくなってきている（図3-1）。

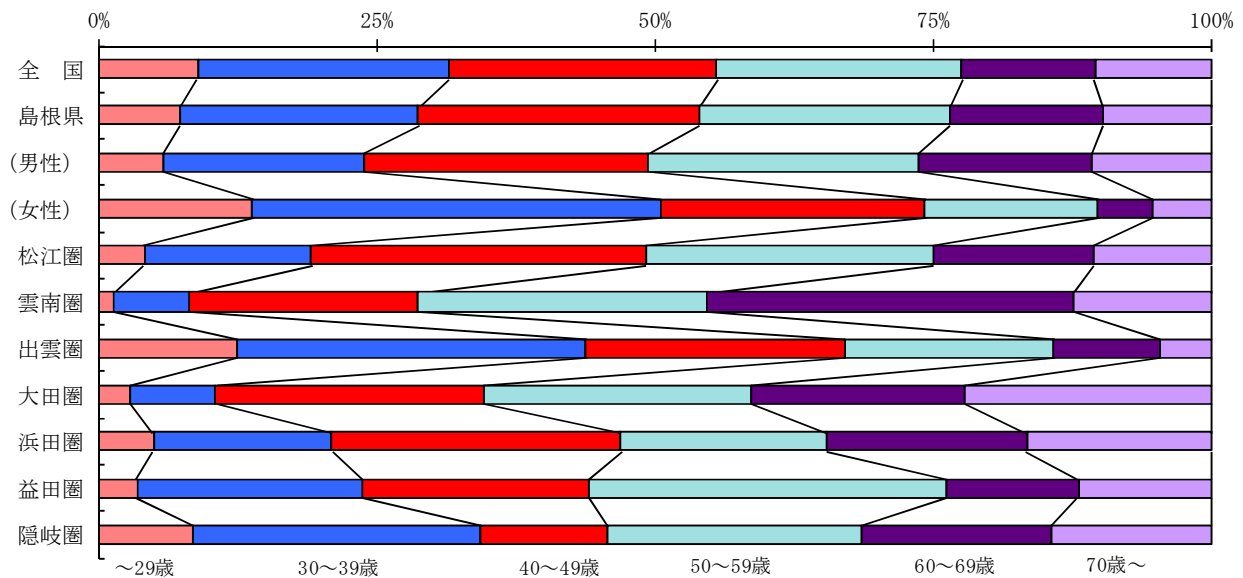
図3-1 医師数及び人口10万対医師数の年次推移



医師を年齢階級別に見ると、県全体では40歳代が最も多く25.2%で、ついで50歳代が22.6%を占める。全国の割合と比べると、ほぼ同様の年齢構成となっている。男女別に見ると、男性は40歳代が最も多く25.5%で、ついで50歳代が24.2%を占める。女性は30歳代が最も多く36.7%で、ついで40歳代が23.7%を占める。

2次医療圏別に見ると、出雲圏が他の医療圏に比べて20歳代及び30歳代の割合が高い。70歳以上の割合が最も高いのは大田圏で、22.1%を占める（図3-2）。

図3-2 医師の年齢別割合



医師の年齢構成の年次推移を10年ごとにみると、昭和50年は45～49歳、昭和61年は25～29歳、平成8年は30～34歳、平成18年は45～49歳が最も多い年齢階級となっている。平成22年をみると、前回調査の平成20年と比べ、60～64歳の階級で大幅に上昇している（図3-3）。

図3-3 医師の年齢構成の年次推移

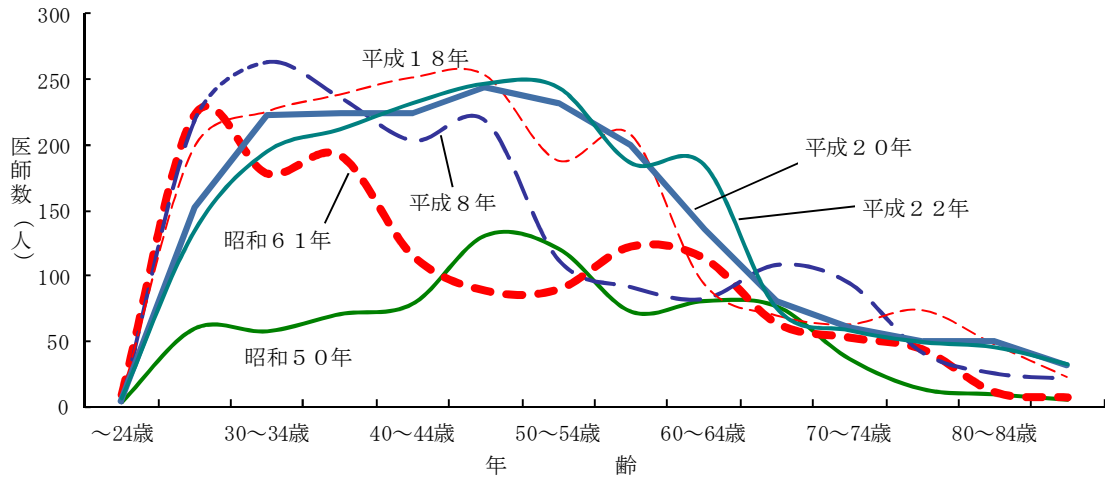


表3-2 診療科(主たる)名別にみた医療施設従事医師数

主たる診療科名別にみた医療施設従事医師数は、内科が最も多く445人で24.7%を占める。ついで、整形外科が131人で7.3%、小児科が105人で5.8%を占める。平成20年と比較すると医師数が最も増加した診療科目は小児科で8人増、最も減少したのは臨床研修医で9人減となっている(表3-2)。

	平成22年		平成20年		増減数 (人)
	人数	構成割合	人数	構成割合	
医師数	1,799	100.0	1,801	100.0	△2
内科	445	24.7	445	24.7	-
呼吸器内科	30	1.7	25	1.4	5
循環器内科	66	3.7	59	3.3	7
消化器内科(胃腸内科)	90	5.0	98	5.4	△8
腎臓内科	7	0.4	6	0.3	1
神経内科	44	2.4	43	2.4	1
糖尿病内科(代謝内科)	21	1.2	17	0.9	4
血液内科	14	0.8	13	0.7	1
皮膚科	51	2.8	53	2.9	△2
アレルギー科	-	-	-	-	-
リウマチ科	7	0.4	10	0.6	△3
感染症内科	1	0.1	-	-	1
小児科	105	5.8	97	5.4	8
精神科	98	5.4	100	5.6	△2
診療内科	-	-	5	0.3	△5
外科	97	5.4	103	5.7	△6
呼吸器外科	9	0.5	9	0.5	-
心臓血管外科	17	0.9	15	0.8	2
乳腺外科	9	0.5	3	0.2	6
気管食道外科	-	-	-	-	-
消化器外科(胃腸外科)	7	0.4	14	0.8	△7
泌尿器科	47	2.6	47	2.6	-
肛門外科	-	-	-	-	-
脳神経外科	32	1.8	35	1.9	△3
整形外科	131	7.3	134	7.4	△3
形成外科	13	0.7	14	0.8	△1
美容外科	1	0.1	1	0.1	-
眼耳鼻いんこう科	66	3.7	65	3.6	1
耳鼻いんこう科	45	2.5	52	2.9	△7
小児外科	4	0.2	4	0.2	-
産婦人科	69	3.8	66	3.7	3
産科	-	-	-	-	-
婦人科	5	0.3	5	0.3	-
リハビリテーション科	26	1.4	24	1.3	2
放射線科	42	2.3	40	2.2	2
麻酔科	55	3.1	56	3.1	△1
病理診断科	10	0.6	10	0.6	-
臨床検査科	2	0.1	3	0.2	△1
救急科	13	0.7	14	0.8	△1
臨床研修医	83	4.6	92	5.1	△9
全診療科	5	0.3	3	0.2	2
その他	26	1.4	19	1.1	7
不詳	6	0.3	2	0.1	4

2 歯科医師

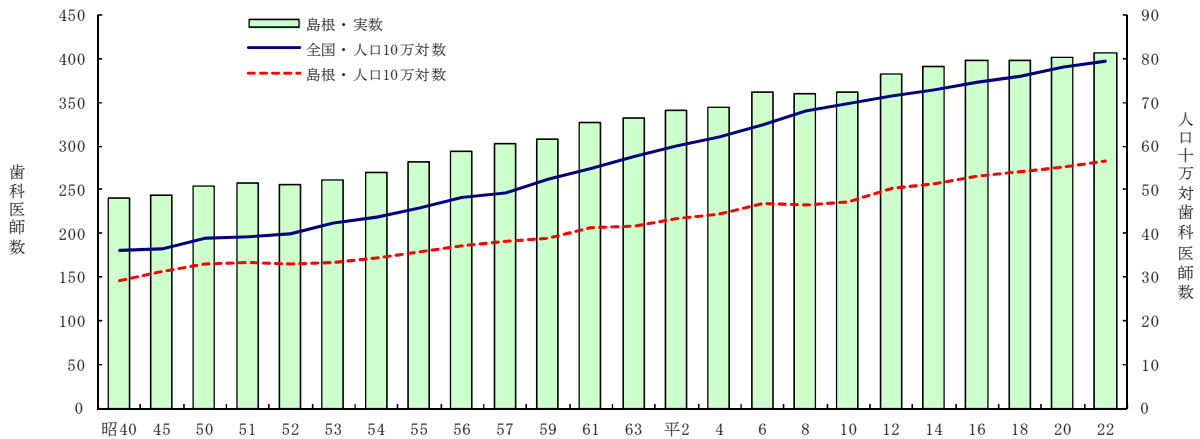
平成 22 年末現在の届出歯科医師数は 406 人で、前回調査時の平成 20 年から 6 人増加した。業務の種類別にみると、ほとんどが医療施設の従事者で 98.3%を占める。うち診療所の開設者又は法人の代表者が 62.3%で、診療所の勤務者が 24.6%である。平成 20 年と比べると、病院の従事者は 6 人増加（構成割合は 1.3%上昇）、診療所の従事者は 4 人増加（構成割合は 0.4%下降）した（表 3-3）。

表 3-3 業務の種類別にみた歯科医師数及び構成割合

	歯科医師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成22年	平成20年		平成22年	平成20年
総 数	406	400	6	100.0	100.0
医療施設の従事者	399	389	10	98.3	97.3
病院の従事者	46	40	6	11.3	10.0
病院（医育機関附属の病院を除く）の開設者 又は法人の代表者	-	-	-	-	-
病院（医育機関附属の病院を除く）の勤務者	24	22	2	5.9	5.5
医育機関附属の病院の勤務者	22	18	4	5.4	4.5
臨床系の教官又は教員	4	5	△ 1	1.0	1.3
臨床系の教官又は教員以外の従事者	18	13	5	4.4	3.3
診療所の従事者	353	349	4	86.9	87.3
診療所の開設者又は法人の代表者	253	257	△ 4	62.3	64.3
診療所の勤務者	100	92	8	24.6	23.0
老人保健施設の従事者	-	-	-	-	-
医療施設・老人保健施設以外の従事者	3	4	△ 1	0.7	1.0
医育機関の臨床系以外の勤務者または大学院生	1	1	-	0.2	0.3
医育機関以外の教育機関又は研究機関の勤務者	-	-	-	-	-
行政機関又は保健衛生施設の従事者	2	3	△ 1	0.5	0.8
行政機関の従事者	1	2	△ 1	0.2	0.5
行政機関を除く保健衛生施設の従事者	1	1	-	0.2	0.3
その他の者	4	7	△ 3	1.0	1.8
その他の業務の従事者	1	-	1	0.2	-
無職の者	3	7	△ 4	0.7	1.8
不詳	-	-	-	-	-

平成 22 年の人口 10 万対歯科医師数は 56.6 人で平成 20 年の 55.2 人に比べて 1.4 人増加した。年次推移をみると、緩やかな増加傾向にあるものの、全国平均に比べてかなり低くなっており、平成 22 年は全都道府県中第 46 位であった（図 3-4）。

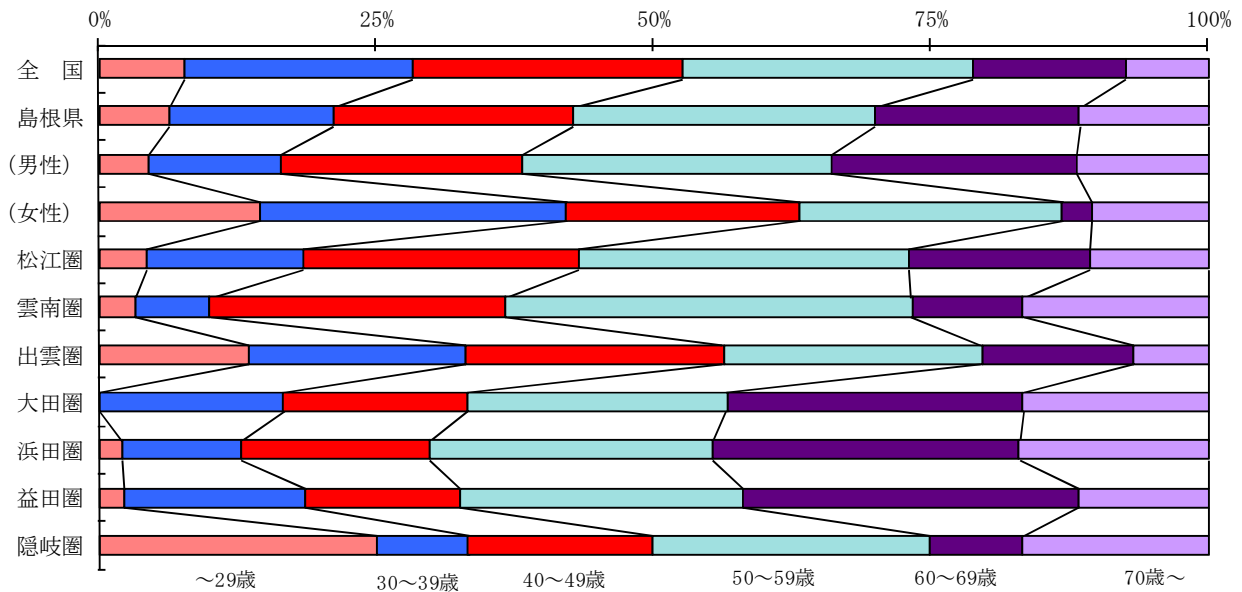
図3-4 歯科医師数及び人口10万対歯科医師数の年次推移



歯科医師の年齢別割合をみると、全国に比べて20歳～40歳代の占める割合が低く、50歳以上の占める割合が高くなっている。男女別に比べると、女性は20歳～30歳代の占める割合が高く、男性は40歳以上の占める割合が高い。

2次医療圏別にみると、出雲圏が他の医療圏に比べて49歳以下の割合が高く、50歳以上の割合が最も高いのは浜田圏で70.2%を占める(図3-5)。

図3-5 歯科医師の年齢別割合



3 薬剤師

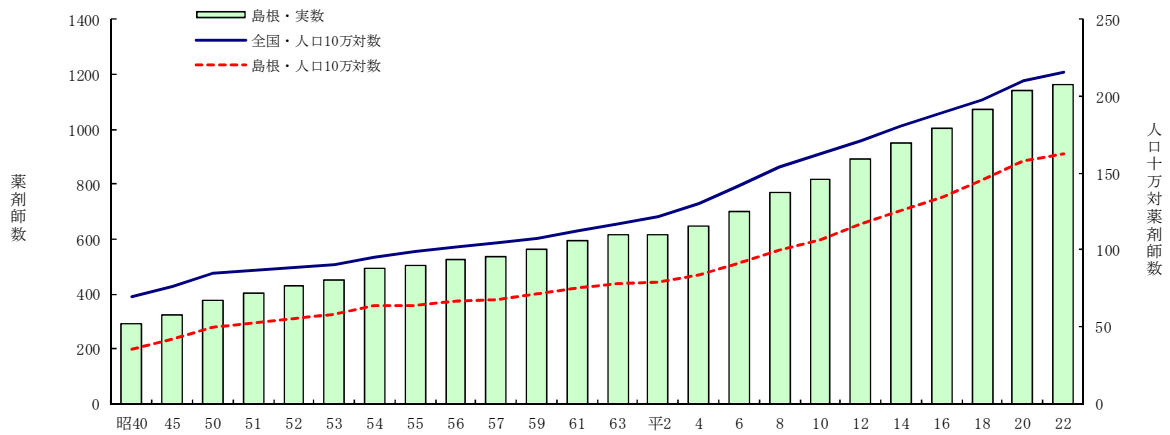
平成 22 年末現在の届出薬剤師数は 1,163 人であり、平成 20 年から 20 人増加した。業務の種類別にみると、薬局の従事者が 666 人（構成割合は 57.3%）で、平成 20 年から 56 人増加した。ついで、病院・診療所の従事者が 317 人（構成割合は 27.3%）となっており、平成 20 年から 3 人減少している。薬局及び病院・診療所の従事者は全体の 84.6%を占めた（表 3-4）。

表 3-4 業務の種類別にみた薬剤師数及び構成割合

	薬剤師数		増減数 (人)	構成割合(%)	
	平成22年	平成20年		平成22年	平成20年
総 数	1,163	1,143	20	100.0	100.0
薬局の従事者	666	610	56	57.3	53.4
薬局の開設者又は法人の代表者	110	111	△ 1	9.5	9.7
薬局の勤務者	556	499	57	47.8	43.7
病院・診療所の従事者	317	320	△ 3	27.3	28.0
病院・診療所で調剤業務に従事する者	297	308	△ 11	25.5	26.9
病院・診療所で検査業務に従事する者	-	-	-	-	-
病院・診療所でその他の業務に従事する者	20	12	8	1.7	1.0
大学の従事者	8	9	△ 1	0.7	0.8
大学の勤務者（研究・教育）	8	9	△ 1	0.7	0.8
大学院生又は研究生	-	-	-	-	-
医薬品関係企業の従事者	93	117	△ 24	8.0	10.2
医薬品製造業・輸入販売業（研究・開発・ その他に従事する者）	32	39	△ 7	2.8	3.4
医薬品販売業（薬種商を含む）に従事する者	61	78	△ 17	5.2	6.8
衛生行政機関又は保健衛生施設の従事者	22	28	△ 6	1.9	2.4
その他の者	57	59	△ 2	4.9	5.2
その他の業務の従事者	13	13	-	1.1	1.1
無職の者	44	46	△ 2	3.8	4.0
不 詳	-	-	-	-	-

平成 22 年の人口 10 万対薬剤師数は 162.1 人で、平成 20 年から 4.4 人増加した。年次推移をみると年々上昇しているが、全国平均と比べてかなり低くなっており、平成 22 年は全都道府県中第 44 位であった（図 3-6）。

図3-6 人口10万対薬剤師数の年次推移



薬剤師の年齢別割合をみると、最も多いのは30歳～39歳で25.9%、ついで50歳～59歳の21.6%、29歳以下及び40歳～49歳が17.5%となっている。2次医療圏別にみると、他の医療圏に比べ出雲圏は29歳以下の占める割合が高く、隠岐圏では60歳以上の占める割合が高くなっている（図3-7）。

図3-7 薬剤師の年齢別割合

